

LAMPIRAN

1. Idiom ki (気) Transitif

Data 1

母は、まだ小さい妹の一ちゃんと、会社の経営維持や若い衆にも気を配りながら黙って母の帰りを待^まっている。(Yakuza Moon, 2006-14)

Data 2

こんなことがあっても大人しくする気にはなれずに、相変わらず友達とブラブラして、たまに気が向いたら登校した。(Yakuza Moon, 2006-33)

Data 3

その向こうで誰かがこの部屋でのセックスをニヤニヤしながら眺めているように思えてきた。

「湘子、腕出せや」

「。。。嫌。。。もう、いきたくない。。。生きたない！！」私は気が狂ったように髪の毛を振り話して大きな声で言った。(Yakuza Moon, 2006-105)

Data 4

それにしてもこんな簡単な洗浄も他看護婦、看護師たちは知らないのか、知っていても面倒だからしなかったのか？それとも臭いにさえも気が付かないぐらいどうでもいいのか？いい加減な対応に呆れ果てしまった。(Yakuza Moon, 2006-199)

2. Idiom ki (気) Intransitif

Data 1

教護院に着いてすぐに職員の先生が「髪、切るからそこに座って」折畳み椅子を用意した。お気に入りのメッシュは足元に敷いた新聞紙の上に容赦なく切り落とされた。「ジャキジャキ」と髪を切る音の中で規則の説明を聞いた。(Yakuza Moon, 2006-44)

Data 2

その日もいつものように、瑞江と私は中内さんに覚醒剤を湘子もらった。中内さんは「少し出て来る」と言った、瑞江も「うちも、ちょっと用があるから出て来るわ。でもすぐに中内さんが戻ると思うから、うちが帰るまで待つといて」と中内さんの後を追うように玄関で靴を履きながら言った。

「用事ってすぐ終わる？」

「あ、うん。。。ファミコンでもして待つといて」

「気をつけてな」

どこか様子のおかしい瑞江が妙に気になった。それから三十分ほどして中内さんが戻って来た。奥の部屋でファミコンの続きをしていると「おい、湘子もいけや」と台所から中内さんの声がした。

(Yakuza Moon, 2006-69)

Data 3

私は仕事にのめり込んでいた。そんな頃、倉持さんという初めてのお客さんが私を指名した。「いらっしやいませ」と笑顔で隣に座った途端、私はドキッとした。目惚れするほど私のタイプだった。話をすると大阪の枚方で不動産会社を営む社長だという。その日は商用で堺に来ていて、宿泊するホテルから近いので飲みに来たのだ

った。遊び慣れてた感じの社長とはすぐに気が合った。(Yakuza Moon, 2006-117)

Data 4

ホテルを後にして自分の部屋に戻ると、約束通り電話がかかってきた。社長はまだ待っている人が少な携帯電話で、高い通話料金のことなど気にする 様子もなく会社に着くまで話し続けた。(Yakuza Moon, 2006-121)

Data 5

すぐ側のビール瓶瓶を掴んで私の頭に叩きつけた。

「気が済むまで殴れ！！」

「われ、もう、一回言うてみい！」(Yakuza Moon, 2006-162)

Data 6

手術台からベッドに移すときに医師はそう言いった。日当たりの悪い部屋の枕には、が一生えていた。身体の痛みよりも、子供を産めない現実に関が引き裂かれるほど痛み、溢れる涙が目尻から顫顫に流れた。高光はベッドの傍らで「今はこうするしかなかたんや。どうしょうもなかつたや。気に病むな」と私の手を握り自分の額に押し当てて下を向いた。(Yakuza Moon, 2006-190)

Data 7

「ミーソミーソ」「ジージージー」連日逝るような暑さが続いている中、蟬の鳴き声が、その日はピタッと止んで静かになり何かが違う気がした。ピッピッピッ)とデジタル時計のアラームのように規則正しく鳴り続ける心電図と、「プシュー、プシュー」とスキューバダイビングの酸素ポソベのような人工呼吸器の音がやけに耳に

つくので、少しでも気を紛らわそうとボリュームを控えめに音楽をかけた。(Yakuza Moon, 2006-199)

Data 8

な一ちゃんより二歳年上でグラフィックデザイナーの彼は、想像どりととても謙虚でしっかりしていて、写真の中で微笑む両親にきちんとてを合わせて婚約の報告してくれた。二人の左手に光る婚約指輪の輝きが、幸せを物語っていた。夕飯の後、久振りに会うな一ちゃんと積もる話もあるだろうと気が利かせてくれたのか、ノートパソコンをあいて「カチ、カチ、カチ」とキーボードを叩いて仕事をやっていた。(Yakuza Moon, hal 241)

3. Idiom ki (気) Adjectiva

Data 1

私だけではなく頑張っているのは万季も同じだった。あれから男に頼らずに短期間でトップの座を手に入れた。本来気が強い万季は、古株がねちねち嫌みを言うので「今に見とれよ。なんも言えなくしてやる」と闘争本能に火がついたのだという。(Yakuza Moon, 2006-239)